

地域包括ケアネットワーク No.63

玉野市の地域包括システム構築に向けての最近の取り組み

玉野市医師会担当理事 近藤 潤次

玉野市では、玉野市医師会を中心として地域包括ケアシステム構築に向け、医療、介護、権利擁護との連携推進し、さまざまな活動を行っております。

昨年度は、「在宅での看取り」を主テーマに、専門多職種を中心に勉強会2回、研修会1回、市民を対象とした講演会1回を行いました。また、在宅療養者の情報共有ツールとして、晴やかネットの一部機能を利用した「めばるネット」の運営を開始し、さらに紙媒体での在宅見守りノート「めばるノート」(図1)を作り、活用を始めました。このノートは利用者基本情報、本人家族、医療介護関係者、ケアマネジャー、医師・歯科医師などが、1つのページに記入できるようにしています(図2)。さらに「もしもの時」の意思表示記入欄(一部、図3)、災害時の心得(一部、図4)、認知症ガイド(一部、図5)。さらに保険証など入れられる、チャック付き収納ケースもつけました。めばるノートのサンプルの希望がありましたら、玉野市医師会事務局まで連絡下さい。

今年度は、「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」を主テーマに事業展開する事にしました。

すなわち、より患者さんや家族の方を中心に、医療、介護提供者、権利擁護の専門家と共に、終末期を含めた今後の医療や介護についての話し合いや、意思決定が出来なくなった時に備えるプロセス、いわゆる「終活」をテーマに、2回の勉強会(7月25日:インフォーマルサービス=地区社協の取り組み=の紹介、10月24日:専門職から在宅サービスの紹介)、1回の研修会(令和2年2月20日:インフォーマルサービス=NPO法人の食事提供、送迎=の実際の活動とグループワーク)、11月24日に市民フォーラムの開催を計画しています。

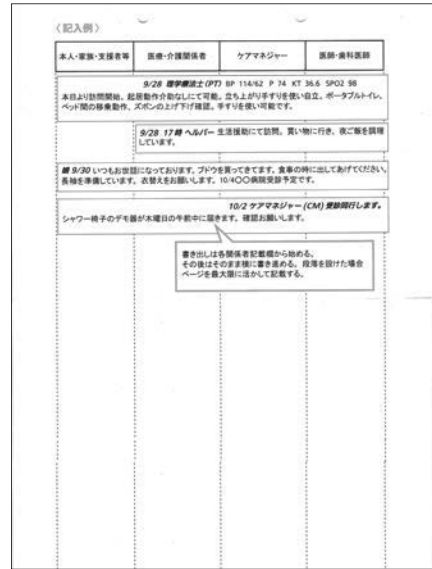
11月24日は「元気が一番まつり」と言う、玉野市の医療、介護、福祉、権利擁護、行政、市民が一緒に行う一大健康イベントがあり、ここでは医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネ、弁護士などが相談ブースを設け、料理教室、障害者団体からの食べ物、物品の出店もあります。市民フォーラムでは、私たち部会の主催する市民に対する講演会を開催予定で、今回は「終活」をテーマとします。

玉野市は、他地域と同様、人口減少、高齢者人口増、医師の高齢化、医療機関の減少が進んでいます。この中で質の良い、医療、介護、権利擁護のサービス提供のため、専門他職種の人たちは、非常に熱心に取り組んでいます。

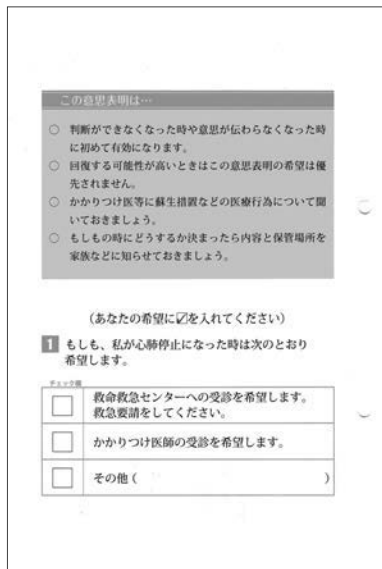
今後、住民目線での活動に力を入れていこうとしていますので、周辺医師会の皆さんの、ご協力よろしく願いいたします。



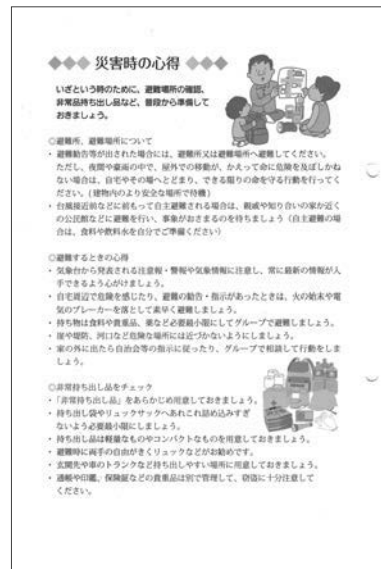
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)



(図5)